

平成30年度武道功労者は並木知徳氏 武道優良団体は浪速学院・浪速高等学校空手道部 「平成31年 鏡開き式・武道始め」



武道功労章を受章した並木知徳氏(中央・右)と武道優良団体の浪速学院・浪速高等学校空手道部・木村智彦理事長(中央・左)・今井謙一監督(左から三人目)。両章受章を祝う全空連関係者。



大將軍を務めた日本武道館理事長・臼井日出男氏による鏡開き。



いざ出陣。大將軍の発声に呼応して関の声(ときのかよ)が響渡った。



空手道模範演武「ウンス」。左から武儀山舞さん、平紗枝さん、石橋咲織さん。



白水修養会・日本空手道練剛会・日本武道館武道学園のみなさん。

武道関係者にとって「成人の日」の恒例行事となっている「鏡開き式・武道始め(主催:日本武道館)」が1月14日(月・祝)日本武道館大道場で開催された。

正午に開会式がスタート。続いて行われた平成30年度日本武道協議会・武道功労表彰式では、武道功労者10名、武道優良団体9団体が表彰された。空手道からは武道功労者として並木知徳氏(全空連相談役・74歳)、武道優良団体として浪速学院・浪速高等学校空手道部(理事長・学院長:木村智彦氏)が表彰された。

並木氏は、永年に亘り全空連の審判委員会の主力メンバーとして活躍、委員長就任後は空手道の競技力向上に尽力した。また早くから国際審判員として活躍し、2000年から8年間のアジア空手道連盟・審判委員長に就任。日本国内は元よりアジア地域全体の審判技術向上に大きな貢献をした。

武道優良団体として表彰された浪速学院・浪速

高等学校空手道部は、1975年設立、今井謙一監督の指導のもと全国大会で多くの優勝を成し遂げている。また、永年全空連ナショナルチームに多くの選手を送り出し、国際大会での活躍に目覚ましいものがある。

この後、戦国武者装束による「鎧着初め・三献の儀・鏡開き式」に続いて、各武道の模範演武が行われ、空手道からは、2018年世界大会団体形優勝チーム(平紗枝・武儀山舞・石橋咲織/帝京大)による、迫力あるウンスが演武され、特に分解の演武では観客席から驚きの歓声が上がった。

各武道が一斉に行う武道始め(稽古会)では、「白水修養会・日本空手道練剛会・日本武道館武道学園」の三団体が参加、真剣に汗を流し、最後は観覧者も大道場に降り、参加者・観覧者全員で「おしるこ会」に舌鼓を打った。

なお来年は東京オリンピックに向けて日本武道館の改修工事のため同行事は中止となる。